

1 明治8年7月13日 菊池長閑

七月十三日認

去月三日より霖雨にて九日夜より出水昨年よりハ式尺余之水嵩と申事間柄出入之者共も先無難にて大慶ニ候中ニハ床之上二尺余水上り候向も有之候得共檢俄(つひ)等も無之候庁下ハ上ノ橋下ノ橋赤川橋夕顔瀬明治橋赤川ノ外皆半分ツ、落端とハ米内浅岸仮橋二ヶ処青木端下小路築川葛西橋落已上十一ヶ処浅岸ニハ当春類焼にて漸家作ニ至候処流失之者も有之よし下小路裏ハ北向之家并小屋半分流失岸ニ欠崩樹木も流れ右等上之橋ニ流れ懸候故落候よし中之橋計ハ残り候故向町之往返は出来居候大河端之四戸近辺ハ床之上二尺余水上り大沢川原表裏とも小路水流れ昨今之処ニては皆川原之如く石地と相成候大矢ハ土台まで水付候よし昨日より上之橋下再渡し始り一渡し二厘ツ、大不自由ニ候其後今以天氣快晴無之折々雨氣催し暑氣も薄く氣候不宜候田畑之水損不少有之候氣候まで違候てハ不濟事と心配致居候末た洋行不取究候哉如何と心配致居候以上

武夫殿

長閑

去月二日左一郎出立ニ付家内之写真頼遣候管相達候哉

再伸下宿之番号并宿之姓名不承郵便エ差出ニ肩書ニ当惑候間早

々報告可有之候

(封筒表)

「亞米利加ホストン府セントル街六番地

ホストンハイラント

菊池 武夫 殿

要用書報平安

(封筒裏)

「日本陸中国岩手県外加賀野

八十六番地

菊池 長閑

」